

教 育 研 究 業 績 書		
2019年5月1日		
氏名 真崎 由美子 印		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
臨床心理、心理療法、精神分析	精神分析的な心理療法、実践、臨床	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例	平成17年4月より現在	パワーポイントを使用し、わかりやすい講義説明を心がけている。また、毎回講義初めに前回の講義で学生より寄せられた質問への回答、感想に対するフィードバックを行い、生き生きとした相互交流の学びになるよう工夫している。
2 作成した教科書、教材	平成18年6月	『こころ育て』（共著、教育出版） 「子どものこころが求めるもの」は、臨床経験の中から子どもと関わる際に気をつけるべきことや、子どものこころが求めているものについて一般向けにわかりやすく記したものである。話を聴くことの意味や、耳を傾けることで子どもに生じた変化について解説している。
	平成19年10月	『子どものライフスタイルに関する研究』（長崎大学 心の教育総合支援センター調査報告書）小中学生の児童生徒を対象とし、ライフスタイルと精神的不適応との関連について研究し報告書を作成した。その結果、子どものうつには性差があり、男子よりも女子の方が抑うつになるリスクが高く、学年が上がるに従ううつリスクをもつ割合も高くなることなどが明らかとなった。子どもの精神的発達や抑うつ、不適応の諸問題についての講義の際、参照している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		期ごとに受講生に対しアンケートを実施しているが、わかりやすい、楽しく学習できるとの声を多く受けている。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他 (科学研究費など 取得状況)	平成17年5月～平成20年3月	文部科学省：平成17年～19年度心の教育支援事業基盤研究（科学研究費）において『心の教育に関する基礎的研究（教育危機対応プロジェクト（代表者：菅原正志））』を行った。
	平成18年7月	長崎大学、大学高度化推進経費社会貢献・産学連携推進プログラムに採択され、『大学と博物館が結ぶ連携市民講座に関する研究』を行った。
	平成19年4月～平成20年3月	平成19年度長崎県マイサポートプラン事業において、『子育て支援の現状と課題、ならびに子育て支援マネージャー養成プログラムの開発に関する研究』を行った。
職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 資格、免許	平成15年4月1日 平成31年2月5日	臨床心理士（登録番号第10461）取得（財団法人日本臨床心理士資格認定協会） 公認心理師（登録番号第7521号）取得（日本心理研修センター）
2 特許等		なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項	平成19年4月～平成20年3月	平成19年度長崎県マイサポートプラン事業において、『子育て支援の現状と課題、ならびに子育て支援マネージャー養成プログラムの開発に関する研究』を行った。以降も毎年、地域での子育て支援講座で講師を務めている。
4 その他		なし

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発刊雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1 現代のエスプリ別冊 オールアバウト「メラニー・ク ライン」	共著	平成16年6月	至文堂	「メラニー・クライン 伝記」(P22-37) 精神分析家メラニー・クラインの生き方を辿り、その業績や概念の変遷、後期の影響などを考察したものである。(松木邦裕編著・椋田容世・一木仁美・浅田由美子・福本修・木部則雄・菊池孝則・中川慎一郎・磯田雄二郎・祖父江典人・浅野元志・北山修・小川豊昭・東中園聡・古賀康彦・飛谷渉・平井正三・藤山直樹)
2 語り・物語・精神療法	共著	平成16年8月	日本評論社	「解離症状を呈する女性との面接」(P27-44) 症例についての語りからではなくむしろ、今ここでの検討会で対話するセラピスト自身の語りの中に、その治療の特徴を浮かび上がらせるスタイルを用いて面接を再考するものである。(北山修・黒木俊秀編著：飯森真喜雄・浅田由美子・神田橋篠治・藤城有美子・重宗祥子・熊倉伸宏・豊永武盛・横尾博志・森岡正芳・江口重幸・梅末正裕・藤山直樹・妙木浩之)
3 こころ育てvol.3	共著	平成18年6月	教育出版	臨床経験の中から子どもと関わる際に気をつけるべきことや、子どもの心が求めていることなどをわかりやすく記したものである(P18-25)。 (菅原正志編集・岩永竜一郎・浅田由美子・岡元和正・河上浩子・佐藤智子・四辻淳子・新崎航平)
4 日常臨床語辞典	共著	平成18年6月	誠心書房	「笑い」(P256-257)：笑いという語について、様々な文献に載っている説明や研究から、その分類を試みている。笑いの効用、意味、分類、日本語での意味などについて臨床的に考察を加えている。(北山修・妙木浩之編著・浅田由美子)
5 抑うつの精神分析的アプローチ 病理の理解と心理療法による援助の実際	共著	平成19年9月	金剛出版	「あるヒステリーにみる抑うつ」(P107-127) 抑うつの背景にある心性を見誤らず関わり続けることは安心感をもたらす。人格もまとまり、情緒を体験できるまで回復した過程を示し、精神分析的視点から事例を見立て、介入する重要性を解説している。(松木邦裕・賀来博光編著・日下紀子・椋田容世・浅田由美子・永松優一・中川慎一郎・鈴木智美・荘野悦子)
6 こころの性愛状態	共著	平成24年11月	金剛出版	こどもの分析家メルツァーの代表作、フロイトの性愛理論を継承し、更に人間の精神一性の発達に関する新たな知見を示唆し、人間の本质に迫る、精神分析臨床の学びに不可欠な著作の本邦初の訳本である。(ドナルド・メルツァー著、古賀靖彦、松木邦裕監訳、真崎由美子第2, 10, 18章担当。P41-54, 155-167, 263-270)
(学術論文)				
1 笑いの葛藤に関する一研究～「笑う」心性と「笑えない」心性について～(査読付、学位論文)	単著	平成14年3月	平成13年九州大学大学院修士論文発表論文集	対人場面で笑いが生起する際、内面と表情のズレや不自然な笑いのために個人内に沸いてくる不安全感や欲求不満、不安やひっかかりなど、笑いについてのネガティブな情緒を笑いの葛藤とし、笑いの葛藤を測る尺度を作成した。(P36-43)
2 母子分離と面接の終結をめぐって—ある摂食障害の事例から—	単著	平成15年3月	九州大学心理臨床研究第22巻	母子分離、早期対象関係に困難を抱えたある摂食障害の事例を、治療関係、特に転移、治療者との分離という視点から理解し解説したものである。(P59-66)
3 心理臨床場面における笑いの取り扱い —その効用と実際、展望について—(査読付)	単著	平成16年3月	九州大学心理学研究第5巻	笑いに関する文献を整理し、臨床心理学的な観点から笑いに対する人々の意識や効用を捉えた。笑いの要素としての割り切れなさ、葛藤を生きることは面接での「橋渡し機能」や「第三の視点」とも重なる。臨床では、笑いの葛藤や両義性を共に抱え、考慮していく視点の重要性が示唆された。(P23-26)
4 対象とつながることをめぐって —その苦痛と希求—	単著	平成17年3月	九州大学心理臨床研究第24巻	“ひきこもり・休学”経験のある学生の経過から、理解につながる視点を呈示し、ひきこもりに至る心理背景について考察した。面接で葛藤を持ちこたえていくことが、自信と回復をもたらした。(P78-83)

5 関係性の表れとしての笑いの葛藤 (査読付)	単著	平成17年3月	平成16年九州大学大学院博士論文発表文集	本研究では、まずこれまでの笑いに関する文献整理を行った。次に、笑いの葛藤下位因子の特徴について考察した。葛藤の減少と対人適応感との間の相関が認められた。また、面接で示され、語られる笑いの葛藤を分類し、その背景にある対人関係での困難や背景との関係も明らかにした。また経過において、関係性に変化が生じると笑いの葛藤も和らぎ変化することが示された。(P89-98)
6 子どものライフスタイルに関する調査 (査読付)	単著	平成19年10月	平成18年度「子どもと教師の心のケアに関する基礎調査」(長崎大学心の教育総合支援センター報告書)	近年子どものうつなど、精神的な問題と生活様式との関連が注目されている。本研究では、小・中学生の児童生徒を対象とし、ライフスタイルと精神的不適応との関連を調査した。その結果、全国的な見解と同様、こどものうつには性差があり、男子に比べ女子の方がうつになるリスクが高く、学年が上がるにしたがってうつのリスクをもつ割合も上昇することがわかった。また、子ども同士が喧嘩をすること自体はうつに影響を与えず、むしろ発達上大切なものであるが、嫌なことは嫌と主張できることが衝動コントロール能力につながり、抑うつ傾向を和らげることが示唆された。(P7-27)
7 信念の放棄ととり入れ — 生きることの拒絶から受容へ— (査読付)	単著	平成21年7月	精神分析研究第53巻 第3号	自己破壊欲求の強い女性との治療過程を、生きることの拒絶から受容に焦点を当てて論じた。クライアントの問題の背景には「押し付けられている」との信念を手放せないあり方があり、この根深い信念を放棄していく喪の過程が、自分の生を受容し、対象と主体的にかかわっていく心的な変化をもたらした。面接過程全体を通じての喪の過程と治療者の理解しようとし続けるあり方の重要性も論じた。(P59-67)
8 心理療法におけるセラピストの妊娠・出産がもたらす心理的意味について(査読付)	単著	平成26年2月	サピエンチア第48号	心理療法においてセラピストの不在は様々に議論されてきたが、特に妊娠・出産に伴う中断や終結は様々な空想を刺激し、危機も生じやすい。双方が圧倒されることもあるが、その心理的意味を吟味し扱うことで治療に役立てることもできることを論じている。(P62-71)
9 羨望の精神分析的な理解とその取り扱い	単著	平成27年3月	甲子園大学紀要第42号	精神分析、とりわけ対象関係論における羨望の解釈についての歴史の変遷を概観し、治療の停滞の要因として羨望が大きく考えられる素材から、夢に表わされたものを理解につなげていくことの重要性などについて特に論じている。(P97-103)
(その他;学会発表)				
1 青年期の対人関係とユーモア表出に関する研究	—	平成12年9月	日本青年心理学会第8回大会発表、大阪	ユーモアセンスを測定する尺度の改良・作成と、ユーモアセンスの個人差を共感性ならびに対人場面での積極性との関連を論じた。
2 解離症状を呈する女性との面接	—	平成14年4月	日本語臨床研究会第9回大会発表、福岡	セラピストの語りから逆転移や、患者より投げ込まれていた感情、展開されていた転移についての深い理解を導くことを論じた。
3 笑いの葛藤と不適応感	—	平成14年10月	日本青年心理学会第10回大会発表、名古屋	「笑いの葛藤」を測定する尺度を作成し、対人恐怖心性などの不適応感との関連を明らかにすることを目的とした。
4 密接なつながりを求めては怯える女性との精神療法過	—	平成15年10月	日本精神分析学会第49回大会発表、札幌	つながりを求めては怯えるある事例についての経過を提示し、つながりを破壊すると同時に治療者が生き残ることの意味について論じた。
5 「いない子」が現実的な対象を見いだすまで—治療者の思考の回復と内的世界の広がり	—	平成17年11月	日本精神分析学会第51回大会、広島	希死年慮の強い女性との治療過程を報告し、治療者が無力感に耐え、考えられるようになることと、患者が現実的、継続的な対象をもてるようになることとの関連について検討した。
6 意味あるつながりを拒む羨望とその取り扱い	—	平成19年10月	日本精神分析学会第53回大会発表、東京	破壊性の奥に罪悪感と羨望があったある事例について、それを意識化していくことが重要な転機となることを論じ、つながりを攻撃していた患者が対象に意味を見出していくまでについて考察した。
7 地域公開講座がもたらす効果に関する一研究—講座受講前後の認知・信念の変化をもとに—	—	平成20年11月	日本カウンセリング学会第41回大会、東京	大学と地域連携の取り組みとして、地域の大人が子どもの心を理解する必要性に着目し、各地で講座を行い、受講による変化を明らかにする研究を行った。受講により、子どもの心、特に感情理解において受講生の堅さが和らぎ、柔軟な対応が可能となることを論じた。

8 生きることと心理療法体験について	—	平成23年9月	日本心理臨床学会第30回大会秋季大会、福岡	生きることの意味を見いだせずにいるクライアントとの心理療法経過を提示し、心理療法を意味あるものと体験する中で、自分が生きていることを実感し、意味を見いだすようになっていった過程を考察した。心理療法と生きることとは、一人ではできないものであり、出会った者同士がお互いに場所を使い、影響を与え合いながら行う創造の作業であり、出会い交流し別れる過程を生き抜くことが成長につながる点で重なるものであることを論じた。
9 生きることと心理療法、そこでの創造	—	平成28年11月	日本精神分析学会第62回大会、広島	あるクライアントとの精神分析的な心理療法経過を提示し、心理療法を意味あるものと体験する中で、自分が生きる意味を見いだすようになっていった過程を、治療者の妊娠を機に終結となる経過を含めて考察した。心理療法と生きることとは、特に本事例では重なりがあり、クライアントとセラピストとの創造の作業であり、出会い交流し別れる過程を生き抜くことが成長につながる点で重なるものであることを論じた。

(注)

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあつては校長）及び専任教員について作成すること。
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 3 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。
- 4 「氏名」は、本人が自署すること。
- 5 印影は、印鑑登録をしている印章により押印すること。ただし、やむを得ない事由があるときは、省略することができる。
この場合において、「氏名」は、旅券にした署名と同じ文字及び書体で自署すること。